



るらてる



2016年
12月
No.828

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教 「イエスがお生まれになったとき」

日本福音ルーテル高蔵寺教会牧師 中村朝美

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。その時、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。

(マタイによる福音書2章1節〜3節)

クリスマスページエン

トは、
昔ユダヤの人々は神さまからの約束、貴い方のお生まれを嬉しく待っておりまして。

貴い方のお生まれを皆で楽しく祝おうとその日数えて待つうちに、何百年も経ちました♪
という歌から始まることが多いと思います。

マタイによる福音書1章では、イエス・キリス



Adorazione dei Magi by Bartolome Esteban Murillo, c. 1655 (Toledo Museum of Art, Ohio)

トの誕生の次第を、聖霊によって宿ったこと、そして、その誕生は700年以上前から預言者イザヤによって「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。」(イザヤ書7・14)と告げられていたと伝えていきます。私たちがユダヤの人々はメシアの誕生を待望していたと聞いています。けれどもマタイによる福音書が語るクリスマスの出来事

は違うのです。

イエスさまがお生まれになった時に、東方の占星術の学者が星に導かれてヘロデ王のいる宮殿に訪ねて来まして。そして「ユダヤ人の王」として主イエスがお生まれになったと東方の学者たちから聞かされて、ヘロデ王だけではなく、エルサレムの人々も、喜びどころか不安を抱いたと語るのです。生まれたばかりの主イエスは、泣き声を



あげただけで、何を語って、何をしたのでもないので。それにもかかわらず、多くの人々に動揺を与えたのでした。

ここにイエスさまの誕生を巡る2通りの人間のドラマを見る事ができます。東方の占星術の学者たちと、ヘロデ王とエルサレムの人々です。

マゴスと呼ばれる東方の占星術の学者たちとは、天文学が盛んなペルシアやメソポタミアあたりの学者であろうと言われています。ユダヤから見れば遠い国です。彼らはユダヤ人ではなく異邦人です。他宗教の学者たちです。キリストとは縁もゆかりもないその人たちが、「ユダヤの王」として生まれたキリストを礼拝するために、星の導くままに旅をしてみました。どれほどの長旅だったのかわかりません。

しかし、分かっていることは、その旅は危険に満ち、困難の伴う命がけの長旅であったということです。驚き以外何もありません。マタイによる福音書ではイエスさまを礼拝したのは、この異邦人の学者たちだけ

です。彼らがイエスさまを「ユダヤ人の王」と認めたということは、イエスさまもまた異邦人の王でもあるということを感じています。彼らはメシア(キリスト)に最も近い存在となっていたと言えるでしょう。

他方、エルサレムの人々は預言者の言葉を聞いていた人々でした。預言者の言葉を身近に聞いていたはず、知らされていたはず。にもかかわらず、それらの言葉を受け入れることができませんでした。祭司長たち、律法学者たちはユダヤ教の指導者、代表者であったのです。彼らはヘロデに問われ、聖書からメシア(「ユダヤ人の王」)が生まれる場所がベツレヘムであることを即座に言い当てています。しかし、それだけです。自分たちで確かめようとはしませんでした。メシア(キリスト)に近い存在であったにもかかわらず、実際には最も遠く離れた存在だったと言えるでしょう。

「あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。」(エペソ人への手紙2:13/口語訳)



⑨【Sacra Familia】

今年もいろいろありましたが、待降節の季節になりました。

さて、待降節を迎えるとき、教会によっては聖家族(をモチーフにした置物)を飾ったりします。そこには、たぶん、飼ひ葉桶に寝かされている幼子イエスを中心に、その両側にマリヤと父ヨセフがいます。それ以外の人物(及び動物)として、並べ方の違いはあるかもしれませんが、羊飼いと羊、占星術の学者とラクダ、そして、馬(ロバ?)、牛がいます。また、馬小屋の上には天使もいることでしょうか。

しかし、少し考えてみると、聖家族の登場人物たちは、私たちの社会が考える「家族」と異なる集団であることに気づかされます。家族を辞書で引くと、

「夫婦とその血縁関係にある者を中心として構成される集団」と説明されています。けれども、マリヤとヨセフはまだ夫婦ではありません。そしてもちろん、羊飼いたちは、マリヤとヨセフの血縁関係者ではありません。また、占星術の学者たちは、マリヤとヨセフにとっては、明らかに外国人です。宗教も文化も違ったことでしょうか。

そして何よりも、彼女(彼女)の真ん中にいる幼子イエスは、聖霊によって処女マリヤから生まれたと聖書は記しています。そう、キリスト教会は、私たちの社会が「家族」として想定していない構成メンバーによる集団を、聖家族と呼び、大切にしているのです。

社会制度、血縁、民族文化、宗教の違いを超えて、最も小さい者(幼子イエス)を中心に集まった聖家族、私たちを固定概念から解放し、大切なコトを教えてください。

岩切雄太
(門司教会 八幡教会 佐賀教会 牧師)

宗教改革 500 年共同記念
<平和を実現する人は幸い>
シンポジウムと記念礼拝

日時 2017年11月23日(木/祝)
10:00~15:00
会場 カトリック浦上教会
(浦上天堂)

共同主催 日本福音ルーテル教会・
日本カトリック司教協議会



議長室から

直樹Sr.牧師(ルーテル世界連盟理事)も参列し、歴史のできごとに立ち会われました。またこの日に宣言された「共同声明」の翻訳の労を徳善義和牧師がいち早く進んでとってくださいました。今号に間に合うことができ、感謝

ルターは「ルーテル」のこと

総会議長 立山忠浩

2016年10月31日、宗教改革記念日の夜、インターネット放送をご覧になった方がいらっしやることでしょうか。スウェーデンはルンドで開催されたルーテル教会とローマ・カトリック教会の「共同の祈り」の放映です。鈴木浩牧師(一致に関するルーテルローマ・カトリック委員会委員)、浅野

『義認の教理に関する共同宣言』や『争いから交わりへ』という共同文書に代表される世界レベルでの両教会による共同の取り組みがあつて、今回の「共同の祈り」へとたどり着くことができたの

すべきことでした。協議会による合同礼拝とシンポジウムが開催されることになっていきます。記念すべき会に皆さんが参加くださり、歴史的証人になっていただければ幸いです。

この「共同の祈り」が日本のある新聞の記事になりました。その記事で「ルーテル派」という呼称が目が留まりました。私たちは通常「ルーテル教会」と自らを名乗る場合ながらも、教派を名乗る場合には「ルーテル派」とは言わず、「ルーテル派」と呼んでいくからず。そして「私たち

いよいよ来年は宗教改革500年の年。「ルーテル」の名をさらに日本中で認知していただく上ない機会です。教会に招くための第一歩。その働きに私たちが用いられるものでありたいのです。

NCCでは、2018年に設立70年を迎えるにあたり、「宣教会議」を主催することとなり、現在、それに向けてプレ集会を計画しています。

今後、2018年の宣教会議までに、プレ集会が第2回「奉仕」テーマ(2017年2月4日)、第3回「証し」マルトウリア(2017年9月9日)、第4回「祈り・礼拝」レイトウ

また今回注目したいのは、加盟教派だけではなく、カトリック教会や日本福音同盟からも青年担当者、参加し、発題があつたということ。教派間の違いを越えて課題を共有し、キリスト教界全体で祈りを合わせる機会になることを願っています。



気仙沼・前浜マリンセンターより

気仙沼市本吉町前浜地域 梶山友美子 (KEPPAPE)

2011年3月11日のあのときから6年が経とうとしています。

ルーテル教会のみならず、まには多大なるご支援を頂き、現在でも応援頂いていること、とても心強いです。ありがとうございます。

最近、災害が日本のいたるところで発生し、発生直後は災害の様子が多く報道されますが、徐々に様子が見えなくなるといのが現状です。前浜地域の現在について、ほんの一部ですが、伝えさせて頂きたいと思

います。まず、私の住んでいる前浜地域の仮設住宅についてです。当初50軒の入居がありました。現在は10軒をきり、防災集団移転での自宅再建や災害公営住宅などへの引っ越しが、やっと本格化してきています。一方で、まだ新居がみつからない方

もいらっしや、仮設住宅に住めただけでもいいほうだと思いつつ、今が一番辛いとも思うとおっしゃる方もいました。引越先では、再度コミュニティのつくりなおし。日々の積み重ねでつくられるコミュニティは、そう簡単につくることはできません。

ご支援いただき再建された、前浜地域の自治会館「東日本大震災復興記念前浜マリンセンター」は、相変わらず、前浜地域の役員会やイベントなど、順調に住民の方々に利用されています。

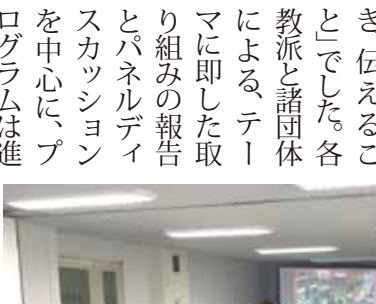
震災から思うと、確実に復興に近づいていることを実感します。震災の影響はまだ続いています。気仙沼はみんな一生懸命がんばっています。元気な気仙沼を見に、ぜひ気仙沼にいらしてくださいね。

9月24日、第1回のプレ集会が早稲田にある日本キリスト教会館にて開催されました。テーマは「宣教」×「青年」×「み言葉に聴き、伝えること」でした。各教派と諸団体による、テーマに即した取り組みの報告とパネルディスカッションを中心に、プログラムは進

められました。日本福音ルーテル教会からは、本郷教会の取り組みの報告が安井牧師によつてなされました。孤立しがちな子育て世代に目を向けたプログラムの展開や地域にある教会としての様々な試みはたいへん興味深い内容でした。特にフェスタは、地域の商店等を巻き込んで展開されていることで、地域とのつながりが強くなっていることがわかりました。

前浜地域の住民に限らず、気仙沼で子育てサークルを行っている若いお母さんや子どもたち、障がいのあるお子さんがいらっしやる保護者の方々との交流会、ピアノ教室など、2〜3日に1回のペースでセンターが利用されています。建物の中は仕切りがあるので、2つの団体が同時に利用したり、1日に3回以上利用されることもあります。

1ヶ月前の予約でも取れないことがあります。また、被災した両隣の地域の自治会館も、今年落成式を終えました。



「熊本地震」支援募金(第2期)へのご協力お願い

皆さんからの厚いご支援に感謝致します。熊本県内の教会の建物損傷への補修を進めています。さらなる支援を必要としています。また教会に加えて、ブラウンチャペル(九州学院)並びに阿蘇山荘(九州ルーテル学院大学)の復旧を合わせ「被災建物設備の建築支援」として募金の呼びかけを致します。

募集期間 2017年4月30日まで
送金先 郵便振替 00190-771734
宗教法人日本福音ルーテル教会
※熊本地震と明記ください。
編集の都合により「ルーテルアワー」などの部署「より」は休載といたします。



宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える (55)

ルター研究所長 鈴木 浩

前号でも書いたように、「義認」という言葉はルターにとっては、救いの出来事全体を指す言葉であった。

しかし、救いの出来事は救われた人に、何らかの變化をもたらすはずだ、と誰しも考える。聖書では「生まれ変わり」、「刷新」、「新しい命」など、その變化を表す言葉が使われている。

パウロも、「キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです」(ローマ6・4)と語っている。「義と認められた」とは「救われた」という意味である。だから、そこには大きな變化が起きている。ルターは使わなかったが、その後、その變化を「義認と聖化」と呼ぶ傾向が出て来た。「聖化」とは聖なる存在になる、という意味である。

ルターの場合には「義認」という言葉の中にその變化を表す「聖化」という

言葉の意味も含まれていて、「義認と聖化」という具合に横並びになると、「義認」という出来事と「聖化」という出来事とが区別されて考えられるようになる。

「義認は、「聖化」という出来事の入りになる。やがて、それは「入り口ではない」と思われていく。アウグスティヌスと激しい論争をしたペラギウスはそう考えた。

つまり、「義認は「無試験での入学許可」であり、「聖化」は一生懸命学んで「卒業する」ということになる。大事なのは、こちらの方になる。

「義人にして同時に罪人」というルターの言葉を考えてみよう。律法に照らせば、自分はどう見ても罪人でしかない。しかし、神はそのような罪人を義人と見なし、汚れたの身を「聖なる存在」であると見なし

てくださる、というのが、

全国ディアコニア・セミナーに参加して

松岡俊一郎
(大岡山教会)

10月9日〜10日、「第24回全国ディアコニア・セミナー」が熊本市の健軍教会で開かれた。テーマは「和解〜キリストにおける愛と平和を学ぶ」。

小副川幸孝牧師による「響きあう者たち〜和解から和解へ」の講演、石原明子さん(熊本大学教員/本郷教会)による講演「和解と正義による再生と希望〜水俣と福島が出会い、熊本へつながる希

望」と、水俣でのスタディ・ツアーと語り部・杉本肇さんの証言を聞いた。水俣病と言えば「闘争」と「環境問題」しか思い浮かばなかったが、むしろ「ゆるし」について深く思索を求めた旅となった。

水俣病は発生から60年が経ち社会の関心は薄くなっているが、水俣病患者とそのご家族の苦痛と苦悩、差別は依然として続いており、認定と損害賠償の有無、保障額の違い、それによるコミュニティの分断が存在する。

しかし、水俣病が極めて宗教的な問いを我々に投げかけていることを知った。それは「ゆるし」の問題である。私たちの今の社会はバッシングと責任追及が盛んな「ゆるし」のない社会である。今回、語り部・杉本さんから、患者であったお母様杉本栄子さんが何十年という水俣病の苦痛と苦悩の中で、「国を許す。県も許す。チツソも許す。」と言われたこと、また同じように水俣病で家族を亡くしご自身も患者であった緒方正人さんが、苦しみからの変容体験を経て、「わたしがチツソだった。この世で最も許されなければならぬのはチツソであ

に投げかけていることを知った。それは「ゆるし」の問題である。私たちの今の社会はバッシングと責任追及が盛んな「ゆるし」のない社会である。今回、語り部・杉本さんから、患者であったお母様杉本栄子さんが何十年という水俣病の苦痛と苦悩の中で、「国を許す。県も許す。チツソも許す。」と言われたこと、また同じように水俣病で家族を亡くしご自身も患者であった緒方正人さんが、苦しみからの変容体験を経て、「わたしがチツソだった。この世で最も許されなければならぬのはチツソであ

らな」と言われ、闘いから祈りの生活に変わられたことを聞いた。そこに「キリストの受難とゆるし」が重なると言われていることも教えられた。

私自身はまだそれは未消化で本当の意味で理解はできていないが、頭から離れない。苦しみの体験は、恨みや憎しみの攻撃に変わる。それは復讐の連鎖を生み出す。しかしお二人の言葉は、その苦しみの極みからその連鎖を止める願いに変わり、願いが祈りとなって救しへと変えられたと受け止める。大きな問いを与えられた有意義なセミナーであった。

100歳を迎えた 札幌教会

栗原朋友子

(札幌教会百周年委員会事務局)

2016年10月10日、札幌教会宣教100年を記念して聖餐礼拝が札幌礼拝堂において行われました。収容能力1500人の礼拝堂に出席者が2000人を超える盛会でした。

総合司式は岡田牧師、説教は日笠山牧師、配餐補助は加納牧師、小山牧師と、まさに北海道内の宣教力を結集しての記念

礼拝でした。2000人を超える出席者全員が整然と順序をなして聖餐あるいは祝福を受けました。

礼拝で歌われた『教会讃美歌』の213番は北海道で生まれ、291番、337番、「喜びはむねに」(『ともに歌おう』)は、フィンランドで生まれた賛美歌です。「喜びはむねに」は『教会讃美歌』にはありませんが、シベリウスの作曲、歌詞は江口武憲牧師と牛丸省吾郎牧師の共訳によるもので、特に百年記念礼拝のために選ばれ、数か月前から毎週礼拝において歌われてきた美しい賛美歌です。

浅見正一、内海望、星野徳

札幌教会形成の基盤を築いたフィンランドのルーテル教会への感謝を込めて歌われました。

礼拝出席者には記念品として『宣教100年記念誌』と増田友子さん作画の3礼拝堂の絵はがきを渡しました。記念誌は全国のルーテル教会に郵送されますから、札幌教会の100年の歴史についてはそれによってご理解ください。

記念礼拝に続いて祝賀会が隣接のめばえ幼稚園を会場として昼食を共にして行われました。歴代牧師の武村協、賀来周一、

と云われ、闘いから祈りの生活に変わられたことを聞いた。そこに「キリストの受難とゆるし」が重なると言われていることも教えられた。

私自身はまだそれは未消化で本当の意味で理解はできていないが、頭から離れない。苦しみの体験は、恨みや憎しみの攻撃に変わる。それは復讐の連鎖を生み出す。しかしお二人の言葉は、その苦しみの極みからその連鎖を止める願いに変わり、願いが祈りとなって救しへと変えられたと受け止める。大きな問いを与えられた有意義なセミナーであった。

治、宮澤真理子、ピリピ・ソベリの諸牧師、総会議長の立山忠浩牧師、それに久米芳也牧師のご伴侶がご参加くださいました。諸先生からはそれぞれ温かい有意義な挨拶のお言葉を頂戴いたしました。

札幌教会100年は過去を懐かしむ記念碑ではなくて札幌・札幌北・新札幌の3礼拝堂が一致団結して宣教2世紀へ向かう最初の道標です。大輪真理子さん作成の次世代へのバトンタッチを表すロゴマークはそのことを意味しています。

浅見正一、内海望、星野徳





ルーテル世界連盟ーローマ・カトリック教会 宗教改革共同記念「共同声明」

(2016年10月31日、ルンドにおいてカトリックとルーテルが宗教改革を共同で覚えるに当たって)



キリスト教会の2000年の歴史において、重要な到達点、そして出発点とも言うべき礼拝が、宗教改革499年となる10月31日、ルーテル世界連盟(LWF)とカトリック教会により、スウェーデンのルンド大聖堂で行われました。礼拝では、世界の様々な地域からのそれぞれの服をまとう、世代もまちまちの人々による聖歌隊が賛美し、両教会の代表者が共に祈りを合わせました。LWFのユンゲ事務局長と教皇フランシスコが「まことのぶどうの木」(ヨハネ15:1-5)からそれぞれ説教を語り、日本福音ルーテル教会から鈴木浩牧師(一致に関するルーテルローマ・カトリック委員会委員)と浅野直樹S.牧師(ルーテル世界連盟理事)も出席しました。

礼拝の中で、LWFのユンゲ議長と教皇フランシスコとが署名した「共同声明」を紹介いたします。
……………
共同声明
2016年10月31日、ルンドにおいてカトリックとルーテルが宗教改革を共同で覚えるに当たって

「わたしにつながっていない。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あ

感謝の心をもって

この共同声明をもってわたしたちは、宗教改革500年を覚える年の始まりに当たり、ルンドの大聖堂において共同の祈りを捧げるこの機会ゆえに神に喜びをもって感謝していることを表明いたします。

なたがたも、わたしにつながっていないならば、実を結ぶことができない。」(ヨハネによる福音書15章4節)
神学的違いには偏見と争いとが伴いましたし、宗教は政治的な結果に至る手段となりまして。イエス・キリストを信じるわたしたちの共通の信仰とわたしたちの洗礼はわたしたちに日毎の悔い改めを求めています。それによってわたしたちは、和解の務めを妨げる歴史的な争いと不一致を捨て去ることができのです。過去は変えることができないのですが、何が記憶されるのか、それがどのように記憶されるのかは変えられうることであります。わたしたちお互いの見方を豊かにして、わたしたちは過去の傷と記憶の癒しをわたしたちは祈ります。

共に証しすることに向けて

わたしたちは過去と現在のすべての憎しみと暴力、特に宗教の名によって言い表されてきたそれらを強く斥けます。今日わたしたちはすべての争いを捨てるようにとの神のご命令を聞いています。わたしたちは神が絶えずわたしたちを召しておられる交わりへと向かうように、恵みによって自由になされていることを確認しています。

もカトリック教会も教会の目に見える一致を傷つけてきたことをキリストのみ前でさんげし、悲しみます。神学的違いには偏見と争いとが伴いましたし、宗教は政治的な結果に至る手段となりまして。イエス・キリストを信じるわたしたちの共通の信仰とわたしたちの洗礼はわたしたちに日毎の悔い改めを求めています。それによってわたしたちは、和解の務めを妨げる歴史的な争いと不一致を捨て去ることができのです。過去は変えることができないのですが、何が記憶されるのか、それがどのように記憶されるのかは変えられうることであります。わたしたちお互いの見方を豊かにして、わたしたちは過去の傷と記憶の癒しをわたしたちは祈ります。

共に証しすることに向けて

わたしたちは神に祈りま

できごとを乗り越えて進むとき、わたしたちは十字架にかかり、挙げられたキリストにおいて見えるものとされている神のいつくしみ深い恵みに応えて、相共に証しすることを堅く誓います。
わたしたちは神に祈りま

共に証しすることに向けて

わたしたちは神に祈りま

切に願っています。これは神学的な対話へのわたしたちの関わりを新たにしていることによってもまた、わたしたちのエキュメカルな努力の目指すところなので

共に証しすることに向けて

わたしたちは神に祈りま

よう、共に働くことを強く求めます。以前に増して一層わたしたちは、この世界におけるわたしたちの共同の奉仕が開発や飽くことを知らない欲望にさらされている神の創造へと拡張されねばならないことを認識しています。

共に証しすることに向けて

わたしたちは神に祈りま

共に歩み、今日表明している、祈りを込めた努力を生きたく当たってわたしたちを支え続けてくださるよう求めます。
世界中のカトリックとルーテルの人々への呼び掛け
わたしたちはすべてのルーテルとカトリックの教会員と教会に、わたしたちの前にある大きな旅を続けることに加わって、大胆であり、創造的であり、喜びをもち、希望をもつよう呼び掛けます。
過去の争いよりもむしろ、わたしたちの間における一致という神の賜物が協働を導き、わたしたちの連帯を強めてくださるでしょう。キリストを信じる信仰において近付けられ、互いに耳を傾け合い、わたしたちの関係を共に築き、わたしたちの愛を生きたくすることによって、わたしたち、カトリックとルーテルの者たちは、三位一体の神の力に心を開きましよう。キリストに根ざし、キリストを証しして、すべての人に対する神の限りない愛の信実の使者となるという定めをわたしたちは新たにします。

わたしたちは神に祈り、わたしたちのために祈り、わたしたちを励ましてくださるよう、エキュメニカルな同志にお願いします。わたしたちはこの同志に、わたしたちのために祈り、

（ローマ・カトリック教会）
教皇 フランシスコ
（ルーテル世界連盟）
議長 ムニャ・ユナン
（訳・日本福音ルーテル教会）
エキュメニカル委員会